

越谷も

YES, WE CAN.  
『やればできる』

発行日: 2011年9月30日

発行者: チーム白川

No.11号

事務所: 越谷市大里 226-1  
TEL/FAX 048-970-8005

# 『トライ&チャレンジ』 Try & Challenge



## 越谷の YES, WE CAN. Part X

市民の市政に対する、認識の甘さが、越谷市の衰退を推進している気がしてなりません。市民サービス、議会や議員、財政、地域コミュニティとの関係は、今まで通りで、これからも本当に続けていけるのでしょうか？

自己の利益や一部地域のためだけに市政にお願いをされていていいのでしょうか？

お願いを通すためだけの関係で議会と市民の関係は正しいのでしょうか？

そのお願いを聞くための財政はどこから出ているのでしょうか？

地域の人とのかかわり方も、一定の時期だけになってはいないのでしょうか？

いままでの関係作りや市政への参加方式では、どこかの誰かに依存しているだけで、そのどこかの誰かに全ての負担を押し付けているのです。

その誰かが、自分の子どもや孫であったとしても知らん顔です。

そのような中で、市政や行政に対して、ただ文句を言っても前に進まないことに気付いた人も現れ、ただ恩恵をうけるだけの人と、自らが責任を負う人とはっきりとわかるようになりました。

同じ市民として、ご自身は今どちらなのか、もう一度自分自身に問いかけるべきではないでしょうか？

自己中心的、無関心、無責任、この3つを取り除き、「持続可能か」「そうでないか」を大きな基準として、未来を担う世代の為に、新しい越谷市への転換を皆様も一緒に考えてください。(岡田)

### 政経セミナー第2期・第1回特別講座 大震災後の地方自治体の課題と議会 -8/11

政経セミナーは「統一マニフェスト 2011」を掲げて選挙戦を戦った第1ラウンドを経て、そのマニフェストの実行段階という第2ラウンドに入った。大震災を受けた陸前高田市の50人で構成される「震災復興委員会」(旧来の利益団体の代表者の集まり)の実際の例から、議会が「復興委員会」の道義的機関となり議会不要論に繋がりかねない危殆的状況である事が報告された。

政策を決定する機関としての議会への取り組みが一層議会と市民に求められている。(三輪)



講師: 廣瀬克哉・法政大学教授

### グラウンドゴルフ

【シリーズチーム紹介】蒲生3(スリー)クラブ

現会員数は約30名で、結成12~13年の歴史がある。部長は竹節良三氏で、今年世話方が嶋崎昇司氏から国枝昇三氏にバトンタッチされた。南部第4公園をホームグラウンドにし、春・秋の年2回の大会、木・金の週2回の練習を開催している。健康増進、仲間づくりをモットーに、使用されている公園の管理や清掃も率先されているクラブである。(三輪)



「チーム白川」の会員を募集しています。問い合わせ先: 事務局 岡村 090-3342-3064

## ■ 第94回タウンミーティング -7/30

▶ 市民請願「放射能汚染から子どもたちを守る件」の経過

ゲスト:加藤 万季さん

「5年後10年後子どもたちが健やかに育つ会・越谷」代表の加藤万季さんをお招きして、放射能汚染から子どもたちを守る取り組みについての報告・討議を行いました。今、市民が一番心配している問題でしたので、参加者もこれまでのタウンミーティングで一番多く、若いお父さん・お母さんの、越谷を安全で住みよいまちにしたいという気持ちに溢れる会となりました。(渡邊)



加藤 万季さん

## ■ 第95回タウンミーティング -8/27

▶ 災害発生時における学童の安全確保に向けて

ゲスト:川石 テツヤさん

9月議会の課題を白川議員から、3.11震災時における学童下校の際の安全確保に関する問題点(ツイッター導入に関する取り組みと学校・PTAの反応)をゲストの川石テツヤさん(小学校保護者)から報告を受け、地域コミュニティを作る当事者として、学校や地域あるいは議員との関係をどう作っていくのかの討議がなされました。(三輪)



川石 テツヤさん

◆ 第96回(9/24)は次号に掲載します。  
◆ 第97回は10/22頃に開催予定です。

## ■ 第1回桜井地区市政報告会に参加 -7/13

4月の市議選で選ばれた新しいメンバー5名で開催され、6月議会報告が行われた。議長選挙結果、越谷駅東口の財産取得案件、大袋駅の工事委託案件、3.11大震災の越谷での対応に関する市民請願等の議決結果が報告され、議決の内容説明、理由説明を求める質疑と活発な意見交換がなされた。(岡村)



## ■ 市民から見た越谷市政の課題

越谷における問題点のひとつは、2,000億円弱といわれる多額債務ゆえの市政の消極さではないだろうか。

地方自治体の多くは、この債務を軽くするために多大な努力を強いられている現実がある。首長は自らが作った借金を返済することなく、任期を終えて交代か、引退していく。次世代を担う若い首長は債務状況を市民に説明し、事業の優先順位を市民に問い、改革を進めようとする。右肩上がりの財政を謳歌し「あれも、これも」といっていた首長はすでに退いて、「あれか、これか」の選択をしながらの市政運営となり、いきおい守りの運営にならざるを得ない。

越谷とて同じことで市政運営における知恵の結集が待たれる。越谷の課題は借金返済の道筋が市長・議員・市民と共有できていないことである。事業規模をなかば白紙委任・追認するだけの議会がそこに見えてくる。

第4次振興計画がスタートしたが、債務返済の10年後の姿は語られていない。人口減少・高齢化は一段と進んでいるであろうし、税金の伸びは期待できない。人件費削減、事業規模の縮小は予想がつく。二元代表双方が対等一手先を期待しているのだろうか。(西川)

## ■ 第1回大相模地区市政報告会に参加 -8/3

大相模地区センターで第1回大相模地区市政報告会が開催された。民主党・玉生芳明市議、自民党・服部正一市議の二人が主催した。二人とも地元選出議員らしく、地元思いの熱心さが随所に現れる発言が多くみられた。二人開催の寂しさを感じさせない約2時間となった。質疑の内容は、大相模地区に近いレイクタウン関連問題(道路混雑・騒音・レイクタウンの水質等)が多く、会場内も終始和やかな雰囲気でも議論が進行され、定員50人の会場が地元市民でほぼ満員の盛況振りだった。

今回は初めての開催でアットホームな会となったが、次回以降は、桜井地区・大袋地区に負けないような、市民が身近に政治に参加できる場として、議論を交わすことを期待したい。(狩野)



服部議員 (左) と玉生議員

## 編集後記

◆ 3.11 大震災による放射能汚染から子どもたちを守るための対応策、学童下校時の安全対策等を市民が議会と連携して社会的な合意を作り、対応策を協議して実行する取り組みが進められています。9月市議会の決算特別委員会では、2,000億円弱の借金を抱えた越谷市のH22年度決算に対して、仕分け作業の事業シートを用いて、税金の使い方を明らかにする取り組みが行われています。私達もこの取り組みに参加して行きたいと思えます。(岡村)

<http://shirakawa.mie1.net/>